

釘のめり込みで建て替え！

ショッキングな見出しの記事を見つけました。

築3年の2×4住宅で、外壁のモルタルにヒビ割れが生じた。原因を調べたところ構造用合板を留めている釘が、合板厚さの半分までめり込んでいた。瑕疵担保保険会社は欠陥を認め、合板の張替えを施工会社に促したとの記事でした。

既報73号(2002年8月 **釘が危ない**)、167号(2010年10月 **たかが釘、されど釘**)でもご紹介しましたが、釘の種類と使い方を理解して使わないと大きなクレーンにつながるという事例です。「**釘が危ない**」の著者保阪貴司氏は耐震研究会を主宰し、「構造リフォーム」という言葉を提唱されています。今回の釘のめり込みについては16年前の本でも指摘されており、自動釘打ち機を使う場合、空気圧を落とし、最後に手打ちで固定するのが良いと言われます。例えば9mm厚の合板で3mmのめり込みがあると30~80%保持強度が落ちるとの事です。もちろん、釘の種類や施工ピッチが違えば耐力壁強度はさらに落ちるといえます。

上記の2×4住宅では平均4mmのめり込みがあったことから瑕疵担保保険会社が欠陥を認めた事は当然といえます。新しい工法や金物・新建材が普及してきましたが、メーカーの仕様書には十分に注意して対応しましょう。

120 角隅柱と 105 角管柱は外周合わせに！

もう一つ、クレーンの話です。通し柱や隅柱の偏芯は外周あわせか、内面あわせか、工務店さんで色々ありますが、透湿防水シートの役割から言うと外周合わせとして通気胴縁で透湿シートを固定するべきだそうです。内面合わせの場合、隅柱部は通気胴縁使わずに透湿シートが直貼りとなります。この場合外壁材からの熱でシートが劣化し、防水性が損なわれ腐食を招く可能性が高いそうです。(JIO 談) 当社も今までは何の疑問も持たず、工務店様の言われるとおりに偏芯していましたが、今後は注意を喚起したいと思います。

【情報】

「2018 住まいと建築展」「第19回木材まつり」が開催されます

10/19(金)~21(日) 建築展 (県民交流センター)

10/20(土)~21(日) 木材まつり (県民交流センター中庭)

- * 建築展では20,21日、住まいの相談コーナーにて、税・不動産登記・施工・設計管理・設備・空き家・建築基準法等の相談受付
- * 新技術・新建材・住宅新築・リフォームに関する展示
- * 木材祭りでは木工教室等、楽しい企画がいっぱい
- * 木製品・竹製品の展示即売

【定休日】

10月 は 7, 8, 13, 14, 20, 21, 27, 28 日となります

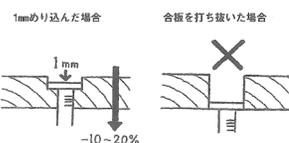
11月 は 3, 4, 10, 11, 18, 23, 24, 25 日となります

宜しくお願いします。

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)

自動釘打ち機はこんなに危険！

釘は強く打てばよいというものではありません。めり込んでしまったり、打ち抜いてしまったりするとまったく強度が出なくなってしまいます。自動釘打ち機を使う場合、釘を打つ強さ(圧力)を確認することができないので要注意です。



1mmめり込んだ場合でも10~20%も強度が落ちてしまう

3mmめり込んだ場合

3mmめり込んでしまうと30~80%も強度が落ちてしまう。特に自動釘打ち機の場合、こうしたことになるように圧力を調整する必要がある

「釘が危ない」より